

## 原市地区指定文化財・天然記念物

- ◆相頓寺（浄土宗）  
相頓寺三仏、相頓寺絵馬群、相頓寺六字名号威板石塔婆  
木造阿弥陀如来立像
- ◆妙巖寺（曹洞宗）  
永楽通宝紋鞍付き鐙一式、西尾隠岐守一族累代の墓  
伊藤由哉碑と墓
- ◆放光院（真言宗）  
木造宝冠阿弥陀如来坐像、松下豊前守の供養塔
- ◆寶藏寺（真言宗）  
ラカンマキ（羅漢楨）、不動明王種子の板石塔婆
- ◆原市稻荷神社  
正徳2年(1712)銘の庚申塔
- ◆原市5区公民館  
原市山車彫刻5基（山田弥吉作）
- ◆矢部家（旧名主）  
ケヤキ（254号）、ミズキ（255号）、ハクモクレン（257号）
- ◆楞巖寺（曹洞宗）  
阿弥陀一尊種子板碑
- ◆原市ふるさとの緑の景観地  
埼玉県 緑の保全第12号

## 原市地区の遺跡

上尾市内には約250ヶ所の遺跡が知られている中で、原市地区には多くの遺跡が発掘されています。

- ・縄文時代  
秩父山遺跡（貝塚）、上尾市N0.17遺跡など
- ・弥生・古墳時代  
尾山台遺跡、坂上遺跡など
- ・奈良・平安時代  
愛宕山遺跡（炭焼窯遺跡）、二十一番耕地遺跡など

## 原市の市

江戸時代に原市藩主・西尾吉次は門前に「市」を行わせ、それが「原市の市」の始まりといわれている。「市」は毎月三八の日に開かれた。蔵造りの家々の広い前庭で米穀・前裁などが交易された。近隣地域から多くの人々で賑わい、明治・大正・昭和（15年ごろ）まで続いた。

※幕末の原市の石高&家数

- ・石高は1,716石（上尾宿619石）
  - ・家数は235軒（上尾宿170軒）
- （上尾市史第七巻通史編(下)より引用・編集）

## 瓦葺掛樋跡

八代将軍徳川吉宗は見沼新田開発を進め、灌漑用水供給のために、1728年全長80kmの見沼代用水路を開削した。瓦葺地区で綾瀬川との交差は掛樋方式を採用した。

- ・1728年～1908年：木製
  - ・1908年～1960年：鉄製
  - ・1961年～現在：伏越方式採用
- （上尾市史第八巻別編1地誌より引用・編集）

## トピックス

1. 田山花袋と原市町  
花袋は「東京近郊一日の行楽」（大正12年6月刊行）の中で、「原市の町はさびしい町だ。昔の武蔵野そのままであろうと思われる草藪、雑木林がある……」と当時の原市町をスケッチしている。
2. 陸軍中尉山本敏彰君慰霊顕彰の碑  
昭和20年4月7日関東地方にB29爆撃機が飛来空襲する。第一練成飛行隊所属の山本中隊長が疾風四式にて僚機とともにB29の体当たり自爆を敢行するが原市上空で散華する。（原市二区の三角家建立の慰霊碑より）



明治時代の原市町内を行く安藤馬車  
（出典 上尾百年史より）



## 上尾市 原市地区歴史散歩

お問い合わせ先：

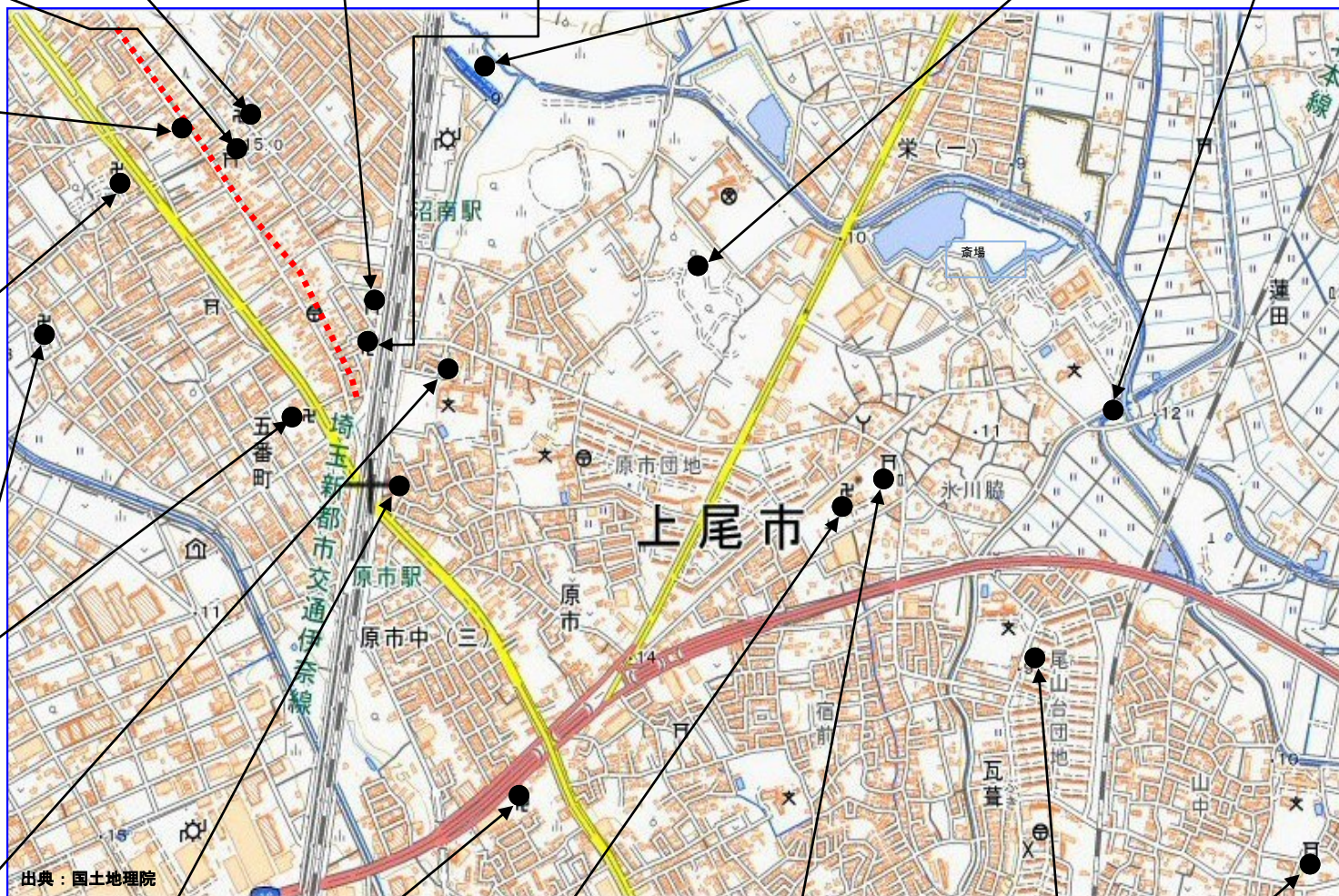
**あげおアッピーガイドの会（観光ガイドは無料）**  
〒362-0042 埼玉県上尾市谷津  
2-1-50 上尾フラザ22  
上尾市観光協会内

TEL：048-775-5917 FAX：048-775-5024  
Eメール：info@ageo-kankou.com  
<http://appie.html.xdomain.jp/>

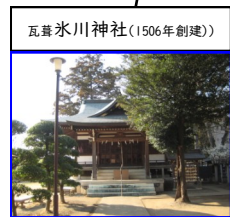
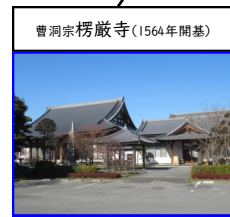
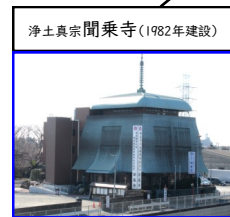
ホームページ  
<http://appie.html.xdomain.jp/>



# 原市地区マップ（名所旧跡）



出典：国土地理院



## 推奨散歩コース

### ◆新幹線周辺コース

(約2.8km、所要時間2時間)

原市駅⇒相頓寺⇒原市大通り⇒  
寶藏寺⇒原市稲荷神社⇒原市沼  
古代ハス⇒(沼南駅)⇒愛宕山神  
社⇒日枝神社⇒原市駅

### ◆新幹線西側コース

(約2.8km、所要時間2時間)

原市駅⇒相頓寺⇒妙巖寺⇒原市  
氷川神社⇒長久寺⇒矢部家⇒寶  
藏寺⇒原市稲荷神社⇒沼南駅

### ◆新幹線東側コース

(約6.6km、所要時間3時間)

沼南駅⇒愛宕神社⇒楞巖寺⇒掛  
樋史跡公園⇒瓦葺ふれあい広場  
⇒原市ふるさと緑の景観地⇒原  
市沼古代ハス⇒沼南駅

## 原市の語源と成り立ち

古くは吉野領に属し「原村」と言っていた。戦国時代この村の一角に宿場が設けられ「原宿」を呼ばれるようになった。江戸時代の初め宿場の中で市が立ち次第に活発になって、原宿の市という意味から「原市村」が成立、明治時代には原市町となった。  
(新編武蔵風土記稿より引用・編集)

## 瓦葺の語源と成り立ち

瓦は河原であり、綾瀬川・原市沼川を指している。葺はフケが転訛したもので、フケには深田・低湿地という意味がある。江戸時代前期は上瓦葺、本瓦葺、下瓦葺の3村に分かれていたが、明治時代に瓦葺村となり、大正時代には原市町と合併した。  
(新編武蔵風土記稿より引用・編集)